

令和7年度 学校評議員会に係る自己評価と学校関係者評価

1 本年度の重点目標

1. 社会のあらゆる変化に対応した教育活動の検討、工夫、実践	・授業、課題、考査、評価等の不断の点検、検討、見直し、改善 ・生徒の自主的、自立的活動を支え、育てるための支援の工夫と実践 ・社会のリーダーとして必要なモラルの向上に向けた生活指導の充実 ・個に応じた指導、支援の工夫と実践 ・台湾研修などの国際交流事業の充実
2. SSH事業(Ⅲ期目)の更なる充実とⅣ期実現に向けた体制整備	・全校体制の見える化を意識した取組の工夫と実践 ・各教科の学習活動と学術研究が連携した、教育の質を高める「探究的な学び」の実践【共通】 ・キャリア形成等の方向性など、「学習の個性化」に対応する「探究的な学び」の実践【選択】
3. ICTの活用、教育改革の動向に対応した指導の在り方の研究と実践	・新教育課程における指導計画の策定、評価の在り方、指導方法の研究と実践 ・総合型、学校推薦型の拡充などの大学入試改革への具体的な対応の研究と実践 ・高校入試制度の検証と適切な実施 ・教育の質を高める「ICT活用」の研究と更なる実践
4. 生徒一人ひとりの進路実現に向けた組織的な支援	・3年間を見通した授業の充実と個に応じた指導、支援の充実 ・学ぶ姿勢の充実強化と自立的学習習慣の確立
5. 学校評価と授業評価の実施	・評価結果を確実に改善につなげる具体的な対応、工夫、実践及び周知
6. 部活動の適正化と業務の精選の推進	・活動方針に基づく計画的な部活動の実践と生徒、教職員双方のライフ・ワーク・バランスの推進

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価・改善の方策	学校関係者評価		
			自己評価の適切さ	改善策の適切さ	
教務部	① 自発的学習態度を育む環境整備やICTを活用した教科指導の推進を通して確かな学力の育成を図る。	B	各教科の学習活動と学術研究が連携し、「探究的な学び」の実践を目指した研究授業・授業検討会の実施、加えて県外視察等を行い、教職員の探究的な学びに対する意識の深化を図った。公開研究授業では、化学の授業においてICTを活用した授業展開を実践し、全教員で共有するなど教科指導について研究を続けている。	BABB	BBBB
	② 新学習指導要領における評価の在り方や指導方法を研究し、実践につなげる。	B	学校評価の結果を見ても、生徒の授業理解度は高水準を維持しており、各教科で行われている観点別評価を意識した細やかな指導や探究的な学びの成果であると考えている。教育課程について常に検討する機会を設け、本校の生徒の実態にあわせた改定を行っている。	AABB	BBBB
学校関係者評価	<p>・学習指導要領の改訂やICTの活用など先生方のご対応が大変な点多々あると思いますが、学年が上がるにつれて学習理解度の向上が見られる点はよいと思います。一方で、特に78回生においては中途退学者が多かった点は気になっています。家庭の事情等学習面の問題だけではないと思いますが、生徒指導も含めて要因など注視いただければと思います。</p> <p>・ICTの活用については、学校として積極的に利用・研究を推進されていることが見て取れますが、情報検索・AI機能の急速な発展をどのように活かし、正しく利用するのか、教員および生徒双方のスキルの向上とモラルの啓発が必要となると感じます。進学校として、教育環境におけるICTの活用をさらに積極的に進めつつ、その安全で正しい利用についての啓発指導も実践されるようお願いしたいと思います。</p> <p>・せっかくのタブレットを持ち腐れにせず、ICT教育をより意識させる形で自然に「強制的に」「選択肢一択で」タブレットを使う学習に取り組んでみるべきだと思う。ほぼデジタルネイティブな子どもたちは、恐らく自分たちで大人の気付かないような新しい情報活用技術を生み出してくれると思う。そのような柔軟な思考が、探求を深め、ひいては科目ごとの学習への興味や関心を強くしていくと思う。</p> <p>・現状の分析については評価。更なる向上に資する具体策が必要。</p>				
進路指導部	① 難関大学・難関学部(東大、京大、東北大、医学部等)の志望者層の育成を図る。	B	難関大志望への垣根を下げることによる、志望者が各大学毎に10名以上となり、集団としての力が加わるような形にしていこうと目指した。そのために、東大・京大、東北大のOBOGによる講演会、東大京大プロジェクト等を利用し、海外大学についても、卒業生の話を聞く機会を持たせた。	AABB	AABB
	② 高大接続改革に対応する進路指導を行う。	B	東北大学学部学科説明会、社会人講話、各種進学講演会等、OBOGによる講話を通して学問的な興味を深め、卒業後の進路について、社会人として自分がどのようになりたいかを含めて、自身の進路を決定する機会を提供できた。	BAAB	BBAB
学校関係者評価	<p>・進路実績は私立や関東勢に押されて年々厳しくなっていくとは思いますが、難関大といった枠にとらわれることなく生徒が希望する進路を実現できるような指導をいただければと思います。また、SSHと絡むかもしれませんが、高大接続の取組など実際の大学の研究に触れる機会が大事だと思いますので、よろしくお願ひします。</p> <p>・伝統校・進学校として、難関大や海外の大学を目指す希望者が育つ土壌をつくるのが重要だと思います。短期的数値の増減に固執する必要はないと思いますが、長期的視点において、生徒が自身の向上心をさらに高める校風を醸成し、難関大や海外の大学を目指す希望者が育つ土壌をつくるのが重要だと思います。その意味で、生徒と年齢の近いOBOGの話を聞く機会をもつ取り組みは高く評価できると思います。今後、県外の伝統校との交流・視察等を通して、一高における教育・進路指導のあり方とその方向性について継続的に検討、実践して行かれることを期待します。</p> <p>・大学入試の形式などが様変わりし、大学もオープンキャンパスなどで情報が多く提供される一方で、従来の評価だけでは測りがたいと感じられることもある。学生たちが何を学びたいか、どう学びたいかということへの情報提供も、仙台一高のネットワークで可能になる部分もありそうだと感じる。東北大とのリンクは十分にあるので、どうなりたいのかをより具体的に考えられるよう、引き続き細やかに指導してもらいたい。</p> <p>・年々変化の多い入試について、情報の収集共有を望む。</p>				
生徒指導部	① 学校行事やホームルーム活動・委員会活動・生徒会活動などの特別活動や部活動を成長の機会として積極的に取り組み、成功体験だけでなく、失敗体験も成長の糧となるように支援し、自主性・自立性を育めるよう支援する。	B	各種活動において、積極的な取り組みが見られた。部活動については、様々な工夫を凝らしながら意欲的に活動している。また、行事においては実行委員をはじめリーダーシップを発揮する生徒が多く、教員と協働しながらも自らの活動として真摯に取り組んでいた。	AABB	ABBB
	② 学校生活を送る上で、生徒一人ひとりが安心な生活を送ることができるようにモラルやリテラシーを涵養しつつ、リーダーシップを発揮することができる人材を育成できるように全体だけでなく、個に応じて支援する	B	日常からの声がけにや年次集會に加え、スマホの利用やいじめ防止の講演会等を活用しながらモラルやリテラシーについて意識付けを行ってきた。また、教員は生徒一人ひとりの特性を大切にしながら支援をする意識が高くなってきている。	BABB	BBBB
学校関係者評価	<p>・今年度も各種部活動等での活躍が多く喜ばしい限りですが、先生方のご負担も含め部活動の在り方については引き続きご検討いただければと思います。また、ネット利用については学校だけでなく各家庭とも一緒に取り組む課題かと思ひます。</p> <p>・一高らしく、生徒の自主性・自立性を尊重しながら実効ある生徒指導がなされていると思ひます。教務におけるICT活用とも重複しますが、日常生活におけるICT(スマホを含む)の安全かつ正しい利用についての啓発指導を継続して行って頂ければと思います。</p> <p>・スマホ利用などについて、学生自身が何か問題意識を持っているとしたら、学生がそれをどう解決につなげていけるかを学生たちに考えさせるというのが真の自立につながる方策に至る早道ではないかと思う。無意識にやっていることの意識化から始めてみる。</p> <p>・リーダーシップの要件の中にぜひジェンダーについての項目も加えてほしい。世界で活躍するリーダーには必須の要件だと思う。女性の先生にも参加していただくことが重要。</p>				
SSH研究部	① 「学術研究Ⅲ」「SS特別講座」「SS探究講座」「SS国際交流」など多様な学びを通じて学習の個別化を進め、生徒一人ひとりに合った支援ができるよう内容の充実と発展を図る。	A	生徒の興味・関心や学習段階に応じた学習の個別化を推進した。「学術研究Ⅲ」履修者26名(昨年度21名)、「SS特別講座」27講座2116名(27講座2074名)、国際交流事業参加者591名(519名)「SS国際交流」履修者40名(35名)、科学技術系コンテスト27名(28名)「SS探究講座」履修者27名(24名)、校外への発表会の参加者251名(231名)など、生徒一人ひとりに応じた学びの充実を図った。今後も、これらの取組を基盤に内容のさらなる充実と発展を進めていく。	BAAA	BABA
	② 「探究スキル表」の活用を研究・実践し、探究活動の質を高める。「学術研究Ⅰ」などで様々な研究に触れる機会を充実させ、探究意欲と研究の深まりを促す。	B	「探究スキル表」および「授業評価」における探究の取組に関する項目を活用し、各教科・科目における探究活動のさらなる充実を図る。あわせて、生徒の探究意欲と研究の深まりを促すため、講演会や研究施設の見学など、様々な研究に触れる機会を継続的に充実させていく。	BABA	BBBA
学校関係者評価	<p>・学術研究を通じて様々なコンテストや国際交流事業への参加など成果が上がっていることは素晴らしいと思ひます。ただ、人数制限等の問題があるとは思ひますが、生徒が希望する学術研究に取り組めない、各種講演会や施設見学など実際の研究に触れる機会が一部の希望者に限られる、といった感もありますので(認識が異なっていたら申し訳ありません)、その点引き続きご検討いただければと思います。</p> <p>・「学術研究Ⅲ」や国際交流事業への参加者が増加しているのは好ましい傾向と思ひます。また、生徒のプレゼンテーション能力も年々向上していることが実感されます。一方で、個々の探究活動の内容とその成果については必ずしも年々向上しているとは言ひ難い面もあつた。全員参加型SSHの特色を活かしつつも、それらの中から素晴らしい着眼点と内容、成果を伴う研究が生まれてくることも期待したいと思います。</p> <p>・全校で個々が取り組む探究活動を取り入れていることが、まずは素晴らしい。個別の体験が周りの学生たちに波及していくような動きが生まれると嬉しいことと思ひます。</p> <p>・ポスター発表会を一般にも公開していることは評価に値する。様々な形で外部と繋がることにより、より一層実践的な研究となることを期待する。</p>				

3 次年度の課題と改善方策

	次年度の課題	改善の方策
教務部	新学習指導要領における評価の在り方や指導方法を研究し、実践につなげる。	生徒の実態に即して教育課程の編成や実施、改善を行う。育てたい一高生像を全教員で共有し、教科指導の充実を図る。
進路部	より高みを目指す生徒の育成と、新課程入試への対応。	新課程入試及び手続きの電子化等への対応をスムーズに行い、制度変更等に振り回されることなく、生徒に向き合った進路指導ができ、生徒も今後の進路について深く考えることができる環境を整備し、行きたい大学への進学を追求する。
生徒部	問題・課題の解決能力を高め、より自主性・自立性の高い、リーダーシップを発揮できる生徒やリーダーを支えることができる生徒を育てる。	あらゆる場面で生徒とのコミュニケーションを大切にすることにより、生徒の言葉に耳を傾け、自ら課題を解決できる場面を多く設け、自立することを後押しできるように支援する
SSH	次期申請に向けて「探究スキル表」の活用と改善「学術研究Ⅲ」「SS特別講座」「SS探究講座」「SS国際交流」などの「学習の個別化」の発展と進化	次期申請に向けて、「探究スキル表」については、生徒・教員双方の活用方法を研究・実践するとともに、より活用しやすい内容へ改善・作成を進める。また、「学習の個別化」に対応した「学術研究Ⅲ」「SS特別講座」「SS探究講座」「SS国際交流」の内容を一層充実させ、本校の実態に即した形で発展・進化させていく。